

平成27年度 南アルプス市立大明小学校関係者評価書

第1回 学校関係者評価委員会

1 実施日 平成27年9月4日（金）午後7時30分～午後9時00分

2 会場 大明小学校校長室

3 参加者 学校関係者評価委員

石田敏枝 市川和男 中沢秀己（委員長）

杉山由貴子 望月孝一（敬称略・順不同）

学校職員

依田良文（校長） 秋山ちえみ（教務主任）

米山茂雄（生徒指導担当）

4 学校から提案された内容

① 学校経営について（校長）

② 学校の自己評価について説明

○教職員による自己評価（教務主任）

○児童アンケート（教務主任）

○保護者アンケート（教務主任）

5 協議されたおもな内容

◎ 教職員による評価、児童アンケート、保護者アンケート結果についての考察

6 協議の場に出された意見等

【教職員評価についての概要説明】

- 学校教育目標「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」について、保護者に理解されている様に配慮しているが、ふつう（B評価）をつけている教職員が多い。もっと工夫したい。
- 経営・組織についてはC評価がなくなった。連絡調整がスムーズになってきた。さらにスムーズになるため、落ちのないように気を付けてく。
- 教育課程では、道徳的実践力・道徳性の評価が低い。道徳は学校教育全体を通して行うもので、常に道徳との関連を意識して行っていくように共通理解を進めていく。
- 生徒指導については教職員が共通理解のもと行っている様子がうかがわれる。1学期に「廊下を走らない」、「あいさつをする」は児童会を中心に全教職員も一緒に取り組み、成果が上がってきた。今後も身に付けてほしいことは、全教職員共通理解のもと指導していく。
- 家庭・地域との連携については、見守り隊やプールなどの監視へのボランティアできてくださる保護者がいて、大変ありがたい。学校支援ボランティアの利用が少ないようであるが、2学期は単元によってボランティアを使用して学習効果の向上や安全について進めていきたい。
- あいさつ習慣、掃除など少しずつ改善されてきている。今後も、当たり前のことを当たり前に行えるような指導を継続していく。

【保護者アンケートについての概要説明】

- 概ね良好な結果であった。子どもの基本的な生活習慣や家庭・地域でのあいさつなどの結果が大幅に向上している。昨年と同様に、今後とも信頼される学校を目指して保護者との連携を大切にしていきたい。

- 学校教育では高い肯定的評価となっている。今後はQ-Uを使って普段の様子について、アンテナを高くして保護者と連携して指導をしていく。
- 子どもの様子については、子ども同士の間関係や学習に対する苦手意識など、子どもの様子を把握しながら、学び合い学習を通して克服していけるよう支援をしていく。

【話し合いで出された御意見等】

- データの分析はできているが、子どもの生の姿を見ていないので、ここでの意見がよくわからない。授業参観の後に学校評議員会・学校関係者評価委員会を行い、子どもたちの姿を見た後で意見交換ができるとよいと思う。
- 荊沢ばやしの児童は、実際に指導をしてもらえるのか？ → 実際にやっている。
- 大明小ばやしは子どもたちも張り合いを持って取り組んでおり、子どもたちが変わる良い取組である。大明ばやしを通して子どもたちの飛躍的な成長を感じる。
- いま、運動会の練習で5・6年生が登校時に「筋肉痛だよ」という話をしている。低学年のあこがれの存在となっている。
- いま、授業参観は少ないのですか？ → 昔と比べて、行事等の参観はあるが、教科等の授業参観は少ない。行事への参観も含めて授業参観（学校開放日）に参観していただき、子どもの様子を見ていただきながら御意見をいただけるとありがたい。
- いま学校は大変、子どもは遊びの中で育つのだが、ほとんど奪われている現状である。先生たちも工夫して子どもたちとふれあっている。また、提出書類も多く、データ作成や学力テストの結果にも目が行く。大明小学校は（どの学校でも同じだが）全部に対応をしている。
- 運動会では縦割り班で関わっており、6年生の先生が1年生を指導することもある。また、子どもたちのアレルギー（食物アレルギーなど）や健康のこと、それぞれの子どもの特性に合わせた対応、更に学校の問題も高度化している等、子ども一人一人を知っておかないとより良い指導ができない現状である。毎月情報の共有を全教職員で行っており、指導の継続ができるようになっている。
- 先生方が悩みを持たず、職員間で本当の気持ちが出せる雰囲気づくりや先生が困らない環境が必要。学校応援団もあるが、職員同士の支え合いが大事であり、笑顔が大切である。
- 児童アンケートを見ると、1・2年生は前向き、3・4年生はくちやくちやくしてくる、5・6年生は少し大人になって、中学生はそっぽを向く、高校生になるとあいさつをする。子どもは発達段階の中で自分の心の中で葛藤をしながら成長をしていく。
- 携帯が気になっている。携帯の使い方について子どもが話を聞く機会があるが、保護者向けの講習でとても良いものがある。PTAの研修会でそういうことをしても良いと思う。
- スマホ、ソーシャルネットワークサービス、インターネットなど、保護者に注意喚起及び指導の協力を依頼する文書を学校より出している。「家庭でルール」をつくるのが大切であり、「フィルタリング」など、今後とも啓発活動をしていくことが必要であると思う。
- 子どもの安心・安全のため携帯を与えるのであろうが、親はその携帯の危険性をどこまで考えているのか？
- 今ではゲーム機でもネットにつながる。うちでは家族しか連絡できない携帯を使っているが、中には親のスマホのお下がりを使っている子どももいるようである。
- 来年度は給食センター新設に伴う給食棟の解体及び給食配送施設の建設、普通教室へのエアコンの設置工事など大変忙しくなるが、子どもが安全に登下校できる導線などもしっかりと考えていく。

貴重な御意見、ありがとうございました。